安全安心だより

令和8年10月16日

令和8年度№3

～家庭・学校・地域でつなぐ～
子ども自身が考え行動する交通安全指導

1　はじめに

いつも子どもたちの安全な登下校・見守り活動へのご協力、ありがとうございます。

私たちが子どもと一緒に歩くとき、つい大人の判断だけで「車がきていないから、早く渡っちゃおう」「青信号だから大丈夫」と先導していませんか？

本当に大切なのは、**「子どもたちが大人と離れ、一人になったときでも、自分の目で安全を確かめて行動できるようになること」**です。

今回は、旗当番、家庭でのお出かけ、そして学校での引率時において、子どもたちの「自立」を促すための共通の声かけとポイントをまとめてみました。

2　見守りの主役を「大人」から「子ども」へ

大人が先頭を歩いていると、「おいで」と呼びかけたり、旗や手で車を止めて無言で渡らせたりしていると、子どもは「大人が守ってくれる」と思い込み、周りを見る習慣が育ちません。

これからは、**「大人は一歩下がって見守り、子ども自身に判断・確認させる」**指導を、家庭・地域・学校で意識してみませんか。

3　日常で実践する「3つのステップ」と自立を促す声かけ

（1）道路に出る手前（横断歩道の手前）で【確実に止まる】

子どもは視野が狭く、気になるものがあると周りを見ずに足が進んでしまいます。

- **危険な行動**：走った勢いのまま、スピードを落とさずに道路へ飛び出す。
- **自立を促す声かけ**：
  - ○「道路の手前だよ。どこで止まるんだっけ？」
  - ○「足元の白い線の手前で、一回ピタッと止まろうね。」

（2）自分の目で【左右の安全確認をする】

大人が「車来てないから大丈夫」と言ってしまうと、子どもは自分で確認しなくなります。

- **危険な行動**：大人の顔や、信号の「青」だけを見て、道路の左右を見ずに渡る。
- **自立を促す声かけ**：
  - ○「右と左から何が来ていないか、自分の目で見て教えて」
  - ○「止まっている車の後ろから、バイクが来ていないかな？」

（3）【車が止まったことを確認】してから【手を挙げる】

「手を挙げれば車は絶対に止まってくれる」と思い込んでいる子どもは少なくありません。車が完全に止まるのを待つ習慣をつけましょう。

・**危険な行動**：車が動いているのに、手を挙げただけで安心し、飛び出す。

・**自立を促す声かけ**：

○「車が完全に止まるまで待とうね」

○「運転手さん、こっちを見て止まってくれたかな？よし、手を挙げて渡ろう！」

4　立場別：子どもと歩く時の注意ポイント

（1）旗当番（街頭指導）の保護者

・**「車を止める」から「子どもを止める」へ**：無理に車を止めるのではなく、横断歩道の手前で子どもを確実に止め、子ども自身の目で安全を確認させてから渡らせましょう。

・**自身の安全第一**：原則として車道には出ず、歩道や白線の内側など安全な位置に立ちましょう。

（2）家庭での付き添い・お買い物

・**子どもの少し後ろを歩く**：登下校の付き添い時は親が前を歩くのではなく、子どもの斜め後ろを歩き、子ども自身に**「止まる・見る・待つ」**をリードさせましょう。

・**お店の出口も要注意**：商業施設の駐車場や店舗から道路に出る瞬間が最も危険です。「お店を出るときも、まず一回は止まる」を徹底させましょう。

（3）登下校指導・引率をする先生方

・**集団でも「個の確認」を意識**：集団登下校や校外学習時、先頭の児童の確認だけで全体を渡らせがちになります。「後ろの人も、右と左が見えているかな？」と、列の途中でも意識が向く声かけをしましょう。

・**危険予測の問いかけ**：ただルールを指示するだけでなく、「あそこから車が急に出てきたらどうする？」など、子どもたち自身に危険を予測させる問いかけ（問いかけ型指導）を日常的に取り入れましょう。

5　おわりに

家庭、地域、学校が同じ目線で「子ども自身に確認させる声かけ」を続けることで、子どもたちの「自分の命を自分で守る力」が確実に育ちます。みなさまのあたたかい見守りと、一歩引いた指導へのご協力をどうぞよろしくお願いします。

無理なく、できる時に、挨拶による見守りをお願いします。

～「子ども安全安心対策推進事業」に関するお問い合わせ先～
松山市教育支援センター事務所（安全・安心担当）　　電話：089-943-3206まで